

加茂から世界へ1

外国の小学生との共同学習「ホームページ作り」

島根県大原郡加茂町立加茂小学校

若 槻 徹

1998年度加茂小学校5年1組（99年度6年1組）の実践

1. 実践の概要

（1）バーチャルクラスルームに参加

「バーチャルクラスルーム・コンテスト」という世界中の児童生徒を対象とした国際的な共同Web制作コンテストがあることを知った。異なる国の3校で構成された各チームは、インターネット技術を用いてそれぞれ選んだテーマについてのWeb作品を制作するというものであった。このプログラムは、インターネットという最新技術を駆使することによって、世界の離れた教室を結びつけ、子供たちの交流と活動の場を広げ、個々の能力を伸ばし、言語や文化の違いを越えて異文化コミュニケーションを図ることをねらいとしていた。

英語での交流を通して、コラボレーションしながら、共同のホームページ（英語）を作っていく活動であった。英語という言葉の壁はあるものの、国際的な共同学習を通して、コラボレーションする力を身につけたり、相手の文化に触れたり、自分たちの文化を再認識したり、調べたことをホームページとしてまとめるという表現力を育てる機会になると考え、参加することにした。

（2）単元のねらい

インターネットを通して、アメリカやオーストラリアの文化に触れ、日本と比較して他国によさや日本（ふるさと）のよさを知る。

共同作品を作る活動を通して、協力しようとする気持ちや完成したときの満足感を持ち、共存の心を育てる。

(3) 活動の流れ(単元構想)

相手の国を知ろう

- ・アメリカとオーストラリアを調べる活動
- ・地図や時計の設置

自己紹介のページを作ろう

- ・相手の友達のページを見る活動
- ・自分の紹介ページを作る活動

【教師間で】計画の話し合い

〃 テーマの決定

小テーマを決めよう

- ・外国との相談
- ・小テーマの分担を決める活動

調査・取材をしよう。

- ・素材集めや内容作り
- ・相手(外国)への連絡

ホームページ作成

- ・コンテンツ制作
- ・相手への感想も盛り込む

共同ページアップ

98年 VC11 <http://www.att.virtualclassroom.org/vc98/j/contest/index3.html>

99年 VC18 http://www.att.virtualclassroom.org/VC99_J/index-old.html

相手とのやりとりや作成するページが英語だったので、実際の作業にあたっては、翻訳ソフトを使ったり、担当者が辞書をフルに活用したり、学校に来てくださる町の国際交流員さんに手伝ってもらったりしながら取り組んだ。

(4) 実際の活動の様子

相手の国を知ろう

相手校を決める段階では、相当数の電子メール(英文)をやり取りし、お互いの条件を出し合い、希望するテーマについて話し合った。子どもたちとは、どんな国的小学生と交流したいか話し合ったり、相手の学校のHPを一

緒に見たりしたが、実際の相手との交渉は 担当教師が行った。

相手校が、アメリカとオーストラリアに決まり、相手の国について調べる活動を行った。町の国際交流員さんが現在はアメリカの人、前任者はオーストラリアの人であり、子どもたちはそれぞれの国の知識を少しは持つてはいたが、これから交流する相手が同じ年の小学生ということで意欲的に調べていった。図書室の本で調べたり、国を紹介するビデオを見たり、国際交流員さんにアメリカの話を聞いたり、担任がオーストラリアへ行った時の写真を見たりした。また、インターネットに接続してそれぞれの国のライブカメラを見たりした。「オーストラリアとは時差が1時間しかない。」「アメリカは今、夜なんだ。」と世界を実感したりした。また、子どもたちに相手の意識を常に持たせたいと考え、教室には 世界地図とアメリカとオーストラリアの時刻を示す時計を掲示しておいた。



交流員さんからアメリカの話を聞く

自己紹介のページを作ろう

担当教師間の相談で、まず、お互いに写真入りの自己紹介のページを作ることとし、互いに制作にかかった。チームリーダーのオーストラリアから作ったページを送ってもらい、それを見る活動を行った。プリントして掲示するとともに英文を翻訳して紹介した。アメリカのページもでき、それらを見ながら、学級の子どもたち一人ひとりが自己紹介を日本語で作っていった。自分の趣味や相手への質問、相手からの質問の答えなどを内容として盛り込んだ。そして、英語版の自己紹介ページを作成した。



アメリカの友達



オーストラリアの友達

Year of the ocean - Microsoft Internet Explorer

ファイル[?] 優先[?] 表示[?] お気に入り[?] ツール[?] ヘルプ[?]

戻る[?] 前[?] 検索[?] お気に入り[?] 新規[?] ホーム[?] フォルダ[?] リンク[?]

アドレス[?] RW-1KVCL1Wframeset.htm

One Ocean Three Countries

Classes Oceans Creatures Pollution Explorers Food Stories Policy ABC Sports Future	 Television game	I keep a dog in my house.
	Baseball	I go into the Kamo little sports team of baseball. My back number is 11 and I am protecting the center. Then, good-bye.
	Sport (Gymnastics)	Although it can meet only by the Internet, let's receive inside. I am learning Soroban. There, what is blast-of-wind ?
	Reading	I like the book of a tale or a biography. What book do you like? Is reading a book favorite?

ページが表示されました

マイコンピュータ

日本の自己紹介ページ

小テーマを決めよう

共同研究のテーマは「Year of the Oceans」とし、海と関わったいろいろな内容を調べていくこととなった。海をテーマとしてどんなことを調べたり、比べたりしたらよいかを話し合っていった。そして、日本側の考えをチームの掲示板やメーリングリストに載せて(英語に翻訳して)インターネットを通して、話し合いを進めていった。その結果、次の小テーマに決まった。

海の生き物	自分のまわりの海	海の探検家	海の食べ物
海の環境問題	海の昔話	海の詩	海のスポーツ 海の ABC
未来の海			

そして、学級で自分はどのテーマを調べて、作品を作っていくかを相談した。
3~4人ずつのグループで分担していくことになった。

調査や取材をしよう。

まず、小テーマ毎に何をどのようにして調べるのか、調べたことをどう表現していくのかを話し合った。図書室の本で調べたり、インターネットのホームページを探したり、地元の人に聞いたりして調べていった。そして、どのように表現したらよいか考え、絵を描いたり、写真を使ったりするなど工夫していく。また、担任と相談してクイズ形式にしたり、絵が次々変わるようなページを作ったりするなど表現の工夫もしていく。

ホームページ作成

実際のホームページの作成にあたっては、作成ソフト(ホームページビルダー)を利用し、子どもたちの手で行っていった。他にお絵かきソフト(キッドピクス)を使ったり、デジカメ スキャナーを操作したりしていったが、画像処理に関しては、担任の方で行った。また、ホームページは、子どもたちは日本語で作成し、それを担任の方で翻訳ソフトを使ったりしながら、英文に翻訳していく。出来上がった作品(ホームページ)についてインターネット上の作業ディレクトリーに載せて、お互いに見て、情報交換をしながら、作業を進めていくことができた。英文の間違いなども相手からそのたびにして指摘してもらったり、修正してもらったりして共同で作品を作ることができた。



3校で共同制作したホームページのトップ画面

Year of the ocean - Microsoft Internet Explorer

ファイル④ 優先 お気に入り お気に入り お気に入り ヘルプ④

アドレス④ R06-14VC111frameset.htm 移動 リンク

One Ocean Three Countries

[Classes](#)
[Oceans](#)
[Creatures](#)
[Pollution](#)
[Explorers](#)
[Food](#)
[Stories](#)
[Poetry](#)
[ABC](#)
[Sports](#)
[Future](#)

Three Countries-One Ocean
We are three countries, three schools,
each near a different ocean.

Hallett Cove Primary School in Adelaide,
South Australia is on the Southern Indian Ocean,
Kamo Elementary School in Shiga Prefecture,
Japan is near the Pacific Ocean, and
Central School in Glen Rock, New Jersey,
USA is near the Northern Atlantic Ocean.
Our world's oceans may have different names.

Click on the Flags to visit our Schools' Websites

Central School
 Kamo Elementary
 Hallett Cove South Primary

Classes	Oceans	Explorers
Poetry	Stories	ABC
Sea Creatures	Sports	Food
Future	Environment	

ページが表示されました

日本の昔話は「浦島太郎」を紹介

Japanese Legend Urashima Taro - Microsoft Internet Explorer

ウラジマタロウの物語

A young man called Taro Urashima is living in a certain place.
Taro helped the turtle tormented by children and Taro was accompanied to gratitude by the turtle at "Ryuguo" (the Palace of the Dragon King under the sea).

"Otohime"(a princess of the Palace) gave Taro the glad hand and Taro like and lived in Ryuguo during 3 years

A certain day ,Taro will return to his village.
"Otohime" told Taro, "it must not open by any means" , and she give the casket .

TARO

Taro was accompanied to gratitude by the turtle again and he returned to the village.
although Taro looked at the village, ancient times are passed.
Taro was surprised and walked along the village for a

他に創作のお話をあって、紙芝居形式で表現したグループもあった。

海の環境問題はクイズで

Question of Environmental problem

1. What is the most Garbage in the Sea in Japan ?
 a. Can b. Tire c. Hat

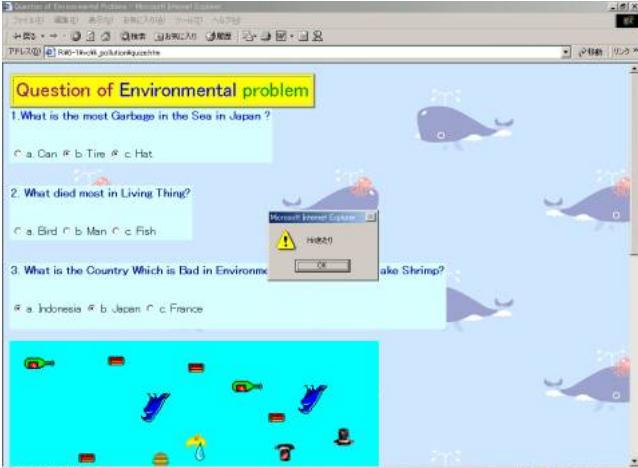
2. What died most in Living Thing?
 a. Bird b. Man c. Fish

3. What is the Country Which is Bad in Environment?
 a. Indonesia b. Japan c. France

Microsoft Internet Explorer

危険だ
OK

lake Shrimp?



アメリカとオーストラリアへはどんな環境汚染があるかをEメールで尋ねたりした。

海のスポーツ

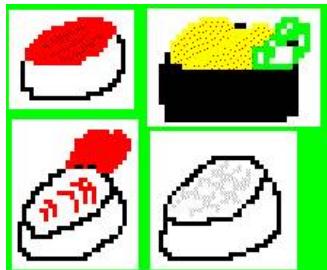
アメリカ

日本



海の食べ物

オーストラリアのシーフードピザと日本の寿司



(5) 作成の過程で

交流のやりとりが英語であったために「翻訳」という作業を担任がしなければならなかつたが、作品についての意見交流で、感想や質問をやりとりしたりすることもできた。また、写真や絵を多くすることでイメージとしてとらえやすくなり、子どもたち自身が意欲的に取り組むことができた。

また、相手の国いろいろなことを知るとともに日本にはどんなものがあるかを調べ、紹介してあげようという気持ちを持つことができた。「海の探検家」チームは、アメリカやオーストラリアのコロンブスやクックに対して、日本の探検家は誰だろうと調べ 苦心して冒険家「植村直己」を取り上げた。「海の生き物」チームは、国語で学習した「サケ」を取り上げて紹介した。アメリカの大西洋側にもサケがいることを教えてもらい、新しい発見をすることができた。「海の昔話」チームの中で、創作話を作り、それをリレーでアメリカ、オーストラリアと続けていくというプランを立てたが、実際には、相手国から継続ができてこなくて、うまく思いが伝わらないことも生じてしまった。

(6) 子どもたちの感想

- ・ホームページを作った時は、いろいろな絵を描いたりして工夫した。また、外国の小学生の人の絵も見ることができておもしろかった。
- ・インターネットを使って他の国の人と交流できてよかったです。
- ・世界の同じ年の小学生と一緒にHPを作ることができてうれしかった。
- ・英語はよく分からなかつたけど、これから勉強してみたくなった。

(7) まとめ

インターネットを通して世界をより身近に感じてほしい。外国の小学生と実際に交流することで、言葉や文化や違いを肌で感じながら、協力して共同作品を作り上げる経験をさせたいと考えていた。実際に活動に入ってみると、担任の方が翻訳作業に追われて、予想以上に大変であったが、ホームページが完成したときには、みんなで喜び合い、やりとげた満足感を持つことができた。そして、英語の壁を体験することで、英語への興味を持ち、自分から調べたりする子も出てくるなど英語学習への関心を高めることもできた。また、この経験を生かして、次年度もこのコンクールに参加し、アメリカ、イタリアとの3校での共同学習に取り組んだ。

2. まとめ

インターネットを活用することで、子どもたち同士が直接交流しながら、外国との交流をすることができた。これらの実践を通して交流を深めていく上で大切なことや配慮したいことをまとめてみる。 海外からのプレゼント

継続的に取り組むことが必要である。

担当者同士の事前の相談を十分に。

実物の郵送、テレビ会議なども有効。

活動内容を自分たちで工夫できると
楽しくできる。

これからも国際交流の機会を広げていきたい。

